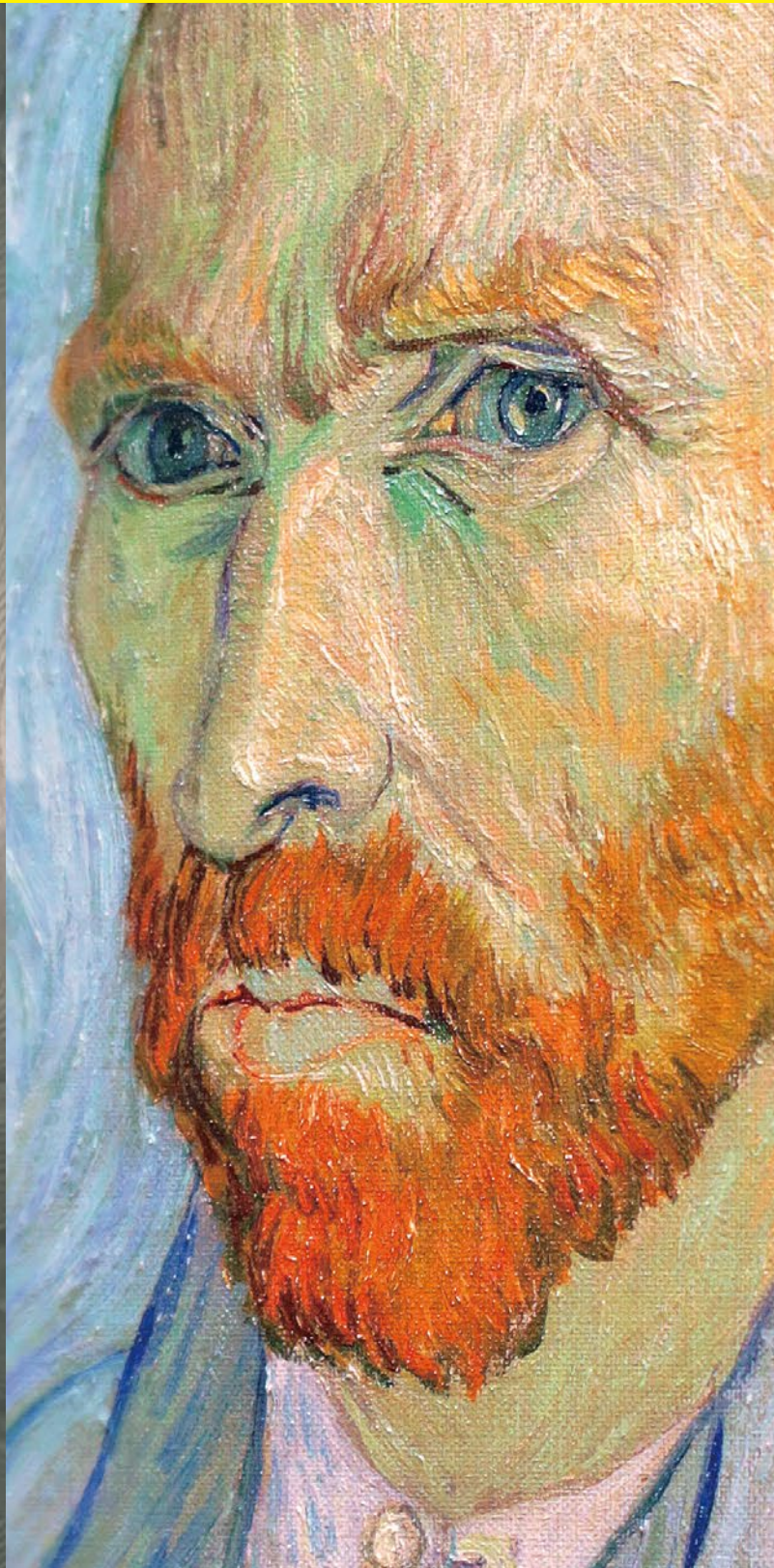


contents

〈展覧会紹介〉「東京藝術大学 スーパークロン文化財展」	[2~4]
〈イベント報告〉Reborn III「未来を掘る 吉田ヨーゾー／小野忠弘」	[5]
平成30年度新収蔵品紹介	[6~7]
美術館イベント報告	[7]
福井県立美術館友の会「令和元年度春の見学会」	[8]
次回展覧会のお知らせ	
美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ	
お知らせ	

表紙：《法隆寺金堂 釈迦三尊像》再現（部分）、《フィンセント・ファン・ゴッホ「自画像」》再現（部分）



バーミヤン、敦煌、
法隆寺からゴッホまで

この夏の 世界の宝に 触れに行きましょう

東京藝術大学
スーパークローン文化財展
7.12金▶8.25日 会期中無休

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
【観覧料】一般1,400円(団体1,200円)、高校生800円(団体600円)、中小生500円(団体400円)
※障害者および介護者1名は半額 ※未就学児は無料 ※団体は20名以上
【主催】スーパークローン文化財展実行委員会(福井県立美術館、福井新聞社、FBC)
【共催】東京藝術大学、公益財団法人しまね文化振興財団
【企画協力】山陰中央新報社、中村 元記念館
【特別協力】東京藝術大学COI拠点、株式会社IKI、株式会社竹尾、小川香料株式会社

関西・中部・北陸では
福井のみで開催!
国宝三大絵巻も
勢揃い!

スーパークローン文化財とは?

東京藝術大学で開発された超・高精細な文化財の再現作品です。最先端のデジタル技術と人間の手技や感性を融合することによって、単なる複製ではなく、技術、素材、文化的背景など、“芸術のDNA”に至るまでの再現を目指したものです。

失われた文化財がよみがえる!

イスラム過激派が破壊した「バーミヤン東大仏天井壁画」、保存のため一般公開が困難な「敦煌莫高窟」、国宝の「法隆寺釈迦三尊像」と焼損した「金堂壁画」などシルクロードの遺産から、ゴッホの絵画や歌川広重の浮世絵まで、人類の“宝”がスーパークローン文化財として目の前によみがえります。

五感で体感する未体験の展覧会!

本展のために特別に撮影された現地の映像、臨場感迫る音、香り、触覚など、五感で世界最高峰のアートを体感することができます。最先端の技術で表現された人類の至宝をご堪能ください!

2017年秋、東京藝大美術館で開催され
話題をさらった「クローン文化財展」が、
この夏、よりパワーアップして 福井へ!!

【関連イベント】

●藝大ギャラリートーク

8月11日(日)、18日(日)
11:00～12:00 / 14:00～15:00 ※各日2回開催
【場所】展示室
【解説】東京藝術大学社会連携センター研究員
※聴講無料(要本展チケット)
8月11日: ゲスト 井上隆史氏 / 東京藝術大学特任教授・元NHKプロデューサー、主な番組「新シルクロード」など。

●藝大ワークショップ「色彩のひみつ」

絵画や彫刻を通して色について考え、体験するワークショップです。展示作品から様々な色を見つけ出し、実際に自分が使いたい色のクレヨンを作ります。
8月3日(土)、4日(日) 13:30～
【場所】展示室内ワークショップスペース
【定員】各日20名
※事前申込み
※先着順・参加無料(要本展チケット)
※申込方法は展覧会HPをご覧ください。

《日本》法隆寺釈迦三尊像

昭和24年、法隆寺金堂が火災に見舞われ堂内の壁画が焼損しました。現在、金堂の扉から中を覗き込むと、格子の向こう側の室内は、本尊・金銅釈迦三尊像とともに昭和40年代に描かれた再現壁画模写によって彩られています。本展では、焼損(劣化)した金堂壁画を同素材同質感で焼損前の状態まで復元し、さらには間近で見ることができない釈迦三尊像を、3D技術を用いて金銅仏で再現しました。螺髪や白毫の復元、左右脇侍の配置転換、大光背周縁に存在したと想定される飛天を復元しました。さらに音、香りも交え空間を一体として再現します。



《法隆寺金堂 釈迦三尊像》3D計測



※実際の展示と一部異なります

《法隆寺金堂壁画》焼損前再現



心つかむ神秘の微笑、
今、目の前に

《法隆寺金堂 釈迦三尊像》再現



《高句麗古墳群江西大墓「四神図」》再現

《北朝鮮》 高句麗古墳群江西大墓「四神図」

中国東北部および北朝鮮に所在する高句麗古墳群は、2004年に世界遺産に登録されました。その中の江西大墓は北朝鮮南浦市に位置し、壁面の花崗岩には高句麗壁画の最高傑作と称される四神図(青龍、朱雀、白虎、玄武)が描かれています。日本のキトラ古墳や高松塚古墳に関連があるとされる四神の鮮明な画像を甦らせ、限られた条件でしか見ることのできない古墳内部を再現する試みは、現地以外では味わうことのできない臨場感や迫力、感動を体験できることでしょう。

《中国甘肅省》敦煌莫高窟第57窟

中国甘肅省の西端に位置し、1987年に世界遺産に登録された敦煌石窟、鳴沙山の断崖に千年に亘ってつくられた多数の洞窟内には仏塑像が安置され、壁画が描かれています。敦煌の文化遺産を守り伝える役割を担う敦煌研究院では、飛躍的に増大した観光客により、文化遺産の劣化が加速度的に進むという懸念から一部の窟で拝観者の制限をしています。本展では、敦煌研究院との共同研究により、「美人窟」と称され典型的な初唐の石窟である第57窟の四方に配された壁画の再現と、塑像を制作当初の姿まで復元し、スーパークローン文化財を用いた保存と観光の両立を試みています。



砂漠の大画廊、
世界遺産の代名詞

《敦煌莫高窟第57窟》再現



《バミヤン東大仏天井壁画「天翔る太陽神」》復元
※実際の展示と一部異なります

破壊されたアフガンの至宝、
祈りとともに復活

《アフガニスタン》 バミヤン東大仏天井壁画

かつては玄奘三蔵が訪れ、仏教文化の繁栄を表すように光り輝いていたアフガニスタン・バミヤンの東西大仏は、2001年にイスラム過激派により破壊されました。本展では、バミヤン東大仏が破壊される前、1970年代に撮影されたポジフィルムと、後に計測された仏龕の3Dデータをもとに画像を合成し、ラピスラズリをはじめとする絵具で彩色して、東大仏天井壁画「天翔る太陽神」を復元しました。平和が描かれた天井壁画とともに、大仏頭上からバミヤンの風景を眺める臨場感を体感できる空間の再現です。



炎の画家、
見つめて触れる

《フィンセント・ファン・ゴッホ「自画像」》再現

油彩画

東京藝術大学では、オルセー美術館の油彩画39点の高精細デジタル撮影を実施し、取得したデジタルデータを用いて高精細複製制作を続けています。フィンセント・ファン・ゴッホが描いた「自画像」や「オーヴェルの教会」、また、ポール・セザンヌの「台所のテーブル」といった名作中の名作を、オリジナルと同様に凹凸を再現したスーパークローン文化財を展示します。さらに、近代絵画の祖とも称されるエドゥアール・マネの「笛を吹く少年」を油彩画として再現するとともに、「笛を吹く少年」の立体的な再現を試みました。



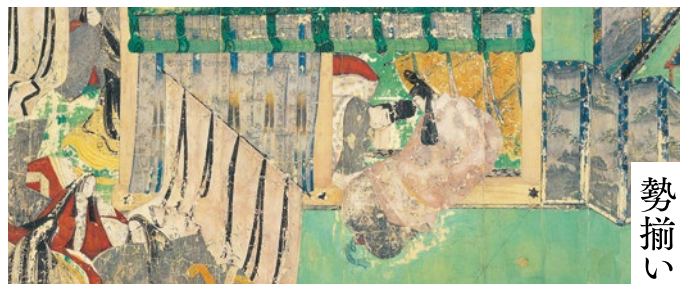
《マネ「笛を吹く少年」》3D

国宝三大絵巻 現状模写

東京藝術大学・日本画第三研究室では、平成16年より「源氏物語絵巻」「伴大納言絵巻」「信貴山縁起絵巻」の、平安時代に制作された国宝の三大絵巻の模写を行い、歴史的価値のある絵画の保存に努めています。徹底的な正確さを要する現状模写は、色彩の剥落や変色、さらに本紙の欠損、汚れや虫食い跡に至るまで、原本のまま写し取るものです。まさにスーパークローン文化財の原点といえます。



国宝三大絵巻も
勢揃い



上：《源氏物語絵巻 第五十帖 東屋一絵》現状模写 下：《源氏物語絵巻 第三十六帖 柏木二絵》現状模写

《イベント報告》



主催：福井県立美術館

福井県立美術館では2月15日(金)から3月17日(日)まで、「未来を握る 吉田ヨーゾー／小野忠弘」展を開催しました。

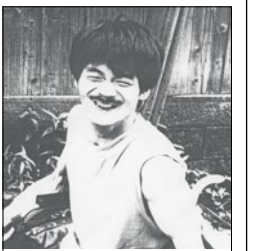
身体的なハンディをもとせず、2016年に61歳で他界するまで制作にはげみ続けた吉田ヨーゾー。本展では、廃品を利用した独創的な立体作品から独特の色彩感覚を用いて描かれた具象絵画まで吉田の多岐にわたる創作活動を回顧。吉田が遺した詩、壁画、1990年にNHK総合テレビで放送された「パッション～画家吉田洋三の世界～」の映像等も紹介し、吉田の表現の軌跡を辿りました。

また1975年に吉田の才能を見出して以降、生涯にわたって吉田を励まし続けた現代美術作家小野忠弘の作品を併せて展示し、

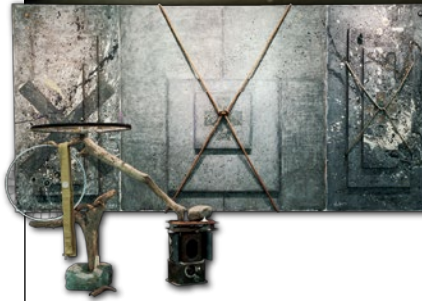
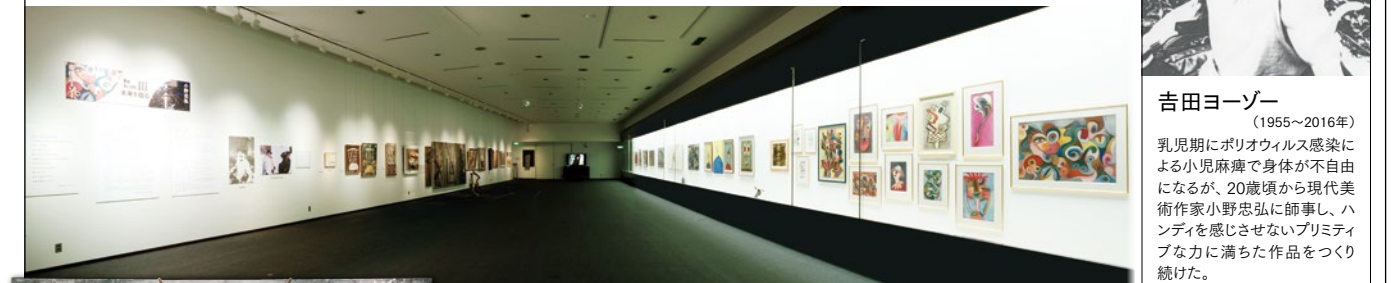
吉田が描いた《猫の口の中を覗くオノ》や、小野が吉田の個展（1992～93年頃）のために書いた紹介文等、二人の交流の様子を遺された資料等によって紹介しました。

本展関連イベント「座談会『吉田ヨーゾーを語る』」「トークショー『小野忠弘とは何か』」等、両作家の活動を検証するイベントも行われ、多くの方々にご来場いただくとともに、各メディアで大きく扱われ、沢山の反響をいただきました。

ご来場いただいた皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。



吉田ヨーゾー
(1955～2016年)
乳児期にポリオウイルス感染による小児麻痺で身体が不自由になるが、20歳頃から現代美術作家小野忠弘に師事し、ハンディを感じさせないプリミティブな力に満ちた作品をつくり続けた。



吉田ヨーゾー《モノ・フォノグラム》1989年
183×368cm 個人蔵



《関連イベント》

●座談会「吉田ヨーゾーを語る」

〔日 時〕2月24日(日) 午後2時～3時45分

〔場 所〕福井県立美術館講堂

〔登壇者〕原田和典氏(元NHKプロデューサー・現在フリー映像作家)、和順光氏(画家)、よしだかずみ氏(吉田ヨーゾー夫人)、西村直樹(福井県立美術館主任学芸員)

〔参加人数〕88名

●トークショー「小野忠弘とは何か」

〔日 時〕3月10日(日) 午後2時～4時30分

〔場 所〕福井県立美術館講堂

〔ゲスト〕梅藤哲朗氏(陶彫家)

〔講師〕西村直樹(福井県立美術館主任学芸員)

〔参加人数〕98名



右から 原田和典、和順光、よしだかずみ、西村直樹



右から 梅藤哲朗、西村直樹

平成30年度新収蔵品紹介

【寄贈】（18件）

岡不崩とその関連資料一式は、平成29年度に福井県立美術館で開催した「狩野芳崖と四天王」展を機に不崩ご遺族よりご寄贈いただいたものです。不崩の展覧会出品作や、その画風を余すことなく伝える草花図の大作など、作家の重要作が多数含まれています。さらに不崩が旧蔵した作品の多くは、不崩の前妻・道の父である永見裕（福井生まれ）がかつて所蔵していたものと考えられ、越前松平家当主の書や、裕の師であり、後に義父となる西周の書などが含まれています。

■岡不崩「群蝶図」

大正10（1921）年
1幅 絹本着色 168.8×85.5cm



女郎花、野菊、桔梗、竜胆、百合、撫子、吾亦紅、藤袴、野薊など秋の草花が咲き乱れる中、モンシロ、カラスアゲハ、キアゲハ、キチョウ、アカタテハ、ムラサキシジミ、サカハなど多種多様な蝶が飛ぶ。草花図は、第一回鑑画会大会に「草花（朝顔遊蝶）」（ポストン美術館蔵）を出品して以降、画家が繰り返し追求してきたテーマの一つ。画家の草花、蝶に対する眼差しは、画家の範疇を超え、博物学的な態度で対象と向き合い、忠実に画面へと反映している。本作は不崩の草花図制作における一つの到達点を示し、作家の代表作に位置づけられる。

■岡不崩「一騎討」

明治36（1903）年
1幅 絹本着色 115.4×56.7cm



不崩が幹事を務めた真美会の第1回展覧会に出品された作品。一騎討ちとは合戦における戦闘方式の一つで、多くの軍紀物語に描かれてきた。人物表現に固さが認められるものの、武具の考証など、古画を通じた学習成果をうかがうことができる。また本作は数少ない不崩の歴史人物画として貴重である。

■岡不崩「雑画帖」

明治時代末から大正時代初期頃（20世紀）か
1冊 紙本墨画・着色 28.6×18.2cm

■岡不崩「帰帆」

大正時代（20世紀）か
1幅 紙本墨画 69.7×71.2cm

■岡不崩「富士に軍艦」

明治34（1901）年
1幅 紙本墨画 108.0×40.8cm

■岡不崩 その他資料一式 計36点

不崩宛書簡、写真、図書など

■岡雪山「函館戦争之絵并出兵輸送船」

明治2（1872）年
1幅 ※2図上下貼付け 紙本墨画淡彩
《第1図》28.0×45.9cm 《第2図》27.5×38.3cm

■竹僊「楊柳観音図」

明治時代（19世紀）
1幅 紙本着色 110.3×53.0cm

■不夢「水禽図」

明治23（1890）年
1幅 紙本着色 108.0×60.5cm

■児玉果亭「山水図」

明治時代（19世紀）
1幅 紙本墨画 133.5×47.8cm

■不詳「絵手本一式」(6点)

明治時代（19～20世紀）
未表装 紙本墨画 108.0×40.8cm

■不詳「元寇（下図）」

明治時代（19～20世紀）か
1幅 紙本墨画 45.4×55.4cm

■西周「漁歌子」

明治時代（19世紀）
1幅 紙本墨書 138.9×48.3cm

■松平茂昭「七言絶句」

明治時代（19世紀）
1幅 紙本墨書 175.7×46.4cm

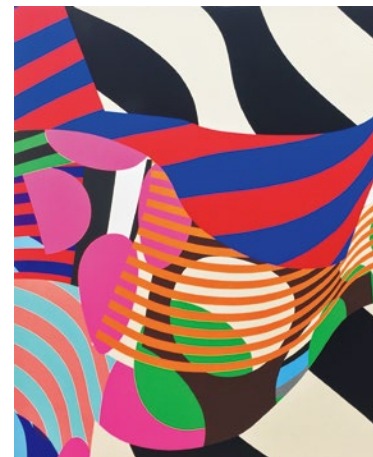
■松平春嶽「七言絶句」

明治時代（19世紀）
1幅 紙本墨書 130.0×64.5cm

■島田雪谷「花鳥動物押絵貼屏風」

幕末から明治前期頃（19世紀）
6曲1双屏風 紙本着色 各162×317cm

平成30年度に新しく寄贈・寄託を受けた作品（寄贈18件、寄託4件）の一部を紹介。



■今井俊介「Untitled」

平成30（2018）年
未装（木枠張り付け）
キャンバス・アクリルガッシュ
90.0×73.5cm



■今井俊介「Untitled」

平成30（2018）年
未装（木枠張り付け）
キャンバス・アクリルガッシュ
90.0×73.5cm

本年1月に開催した「RebornⅡ 未来を発明」展に出品された今井俊介氏の作品（2点）を、福井県立美術館ボランティアの会が購入し、美術館へご寄贈いただきました。本展はその前年に40周年を迎えた福井県立美術館の「未来」について考えることを目的に開催されたもので、参加した9名の作家がそれぞれ美術館のコレクションから1点を選び、その作品をモチーフとして新たな作品を制作しました。

今井氏は西山真一「憩」（1950年）に描かれる女性のスカート柄に着目し、右上の作品を制作しました。今井氏の代名詞ともいえる“フラッグシリーズ”の原点は偶然目にした女性のスカート柄にあるといえます。つまり本作の制作はフラッグシリーズにおける原点回帰を提示する一方で、実際の画面からは作家の抱くイメージが流転の中にあり、絶えず次なるイメージを模索する姿勢を読み取ることができるかもしれません。

【寄託】（4件）

■狩野芳崖落款「波上観音図」 昭和時代（20世紀） 未装 絹本着色 123.0×33.5cm

■岡倉秋水「雑画帖（5冊）」 昭和時代（20世紀）か 冊子 紙、鉛筆・インク

■岡倉秋水「写真（15枚）」 明治～昭和時代（20世紀） 未装・マット装

■岡倉秋水「岡倉秋水印章（29夥）」 明治～昭和時代（20世紀）

《美術館イベント報告》

●プレゼント企画

タイトル	日時	会場
新年いちほまれプレゼント（展覧会を見た人先着50名）	1月3日（木） 9:00～	第1展示室受付
じゃんけんでピカソバッジプレゼント （展覧会のチケット提示でスタッフとじゃんけんし、勝った人先着30名）	1月3日（木）～4日（金） 9:00～	エントランスロビー
当館企画展ポスタープレゼント	1月3日（木）～14日（月） 9:00～	

●「うららかなる春の旅立ちCollection展」地域連携企画

日時	出演者	参加人数	会場
3月1日（金）～3月17日（日）	啓新高等学校ファッションデザイン科卒業生	428人	エントランスロビー

●「うららかなる春の音（ね）」音楽会

日時	出演者	参加人数	会場
3月16日（土） 11:00～	ヴァイオリニスト 大久保ナオミ	140人	エントランスロビー
3月16日（土） 12:00～	オカリナ T&M		
3月16日（土） 13:00～	サクソとピアノ Lulu		
3月16日（土） 14:00～	ハーブギター HIROBE&HIROKO		
3月16日（土） 15:00～	マンドリンアンサンブル かのん	102人	エントランスロビー
3月17日（日） 13:00～	2人組女性デュオ Felice Armonia（フェリーチェ アルモニア）		
3月17日（日） 14:00～	丸岡町出身作曲家 ペチカ SETHUの会		
3月17日（日） 15:00～	フルートアンサンブル FUKUI 笛Café アンサンブル RIKO		

〈令和元年度 春の見学会〉

日 時◎令和元年6月4日(火) 参加人数◎42名

行き先◎神戸北野美術館、神戸異人館街、

兵庫県立美術館「印象派からその先へ ―世界に誇る吉野石膏コレクション」

おしゃれな神戸異人館街を抜けて神戸北野美術館へ向かう際、バスに乗るグループをよそ目に果敢に歩いて美術館を目指すグループを発見。あまりの道のりに「バスに乗ればよかった…」と嘆く一部の会員さんもいらっしゃいましたが、その健脚ぶりは脱帽ものでした！ホテルオークラ神戸での昼食はバイキング。「はー、私おなかいっぱい、でも甘いものは別腹ー」と上品に仰るご婦人にまたしても脱帽！そんな会員さんたちも、印象派の絵を見る時ばかりは流石に大人しく、同行した学芸員の話に耳を傾けるのでした。

皆様、お疲れ様でした！



兵庫県立美術館での記念撮影

次回展覧会のお知らせ

「手塚雄二展 光を聴き、風を視る」

【会期】令和元年9月6日(金)～10月6日(日)

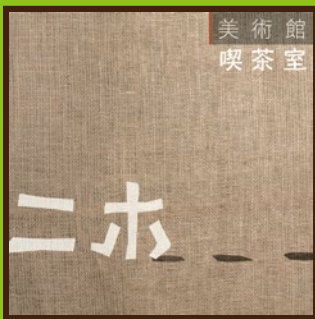
【前売券】一般・大学生 1,000円(当日券 1,200円)

東京藝術大学の教授であり、日本美術院の同人として活躍する手塚雄二（1953年生まれ）は、今年で院展初出品から40年の節目を迎えます。本展は画家の回顧展として過去最大の規模で開催するもので、大学の卒業制作から近年の院展出品作まで、約70点の代表作により詩情あふれる雅な手塚芸術を紹介します。さらには初公開となる画家のスケッチや下図など約80点を併せて展覧し、画業の全貌に迫ります。

前売り券
販売中！



手塚雄二《秋麗》2015年 個人蔵



スペシャルメニュー

「シルクロードの 子羊ちゃんパフェ」

東西の文化を繋ぐシルクロードをパフェに。西の代表・トルコのチャイと東の代表・日本の抹茶の自家製アイスに、塩ちんすこうの子羊ドリーちゃん、トルコ産イチジク等をあしらった旅するパフェをお楽しみください。

Contact

美術館喫茶室 二ホ

【open】9:00～19:00

【closed】月曜日

tel: 0776-43-0310 *無料Wi-fi*

address:

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館 正面左手

*美術館が休館でも、
月曜日以外は営業しております。

お知らせ

◎2019年8月～9月の休館日について

展示替え、館内メンテナンスなどのため、下記期間は休館とさせていただきます。

8月26日(月)～9月5日(休)